一日宇宙記者新聞

HTV2号機

こうのとり2号機取材

2011年1月20日～22日・種子島宇宙センター

記者・吉田和馬、岩田浩幸、丹羽晶大、森田 就、鈴木リディ、中埜 遥

国際宇宙ステーションに荷物を運ぶ補給船「こうのとり2号機（HTV-Ⅱ）」が、2011年1月22日午後2時37分、鹿児島県の種子島宇宙センターからH-ⅡB2号機で打ち上げられ、無事軌道投入に成功。その打ち上げの様子を6人の「1日宇宙記者」が取材しました。

活動アルバム

【1日目】

早朝7：30の高速船で鹿児島本港を出発！　種子島・西之表港へ約1時間半の船旅。島内はタクシーで移動。一路、種子島宇宙センターを目指します。

種子島宇宙センターでは、園田 元センター長のロケット講義。ロケットクイズは盛り上がりました。講義終了後、YAC「夢プロジェクト」で全国から送ってもらった思いを竹崎観望台の屋上で園田さんに手渡しました。

昼食は景色のいい食堂でみんなで仲良く食べました。昼食後は、竹崎観望台へ向かいました。途中の砂浜で、キレイな貝もたくさん拾いました。　記者ブリーフィングにも「記者」として参加しました。一生懸命、記者会見の内容をメモします。

ときには、こちら側が逆に取材を受けるシーンもありました。南日本新聞の記者、山崎さんに、「記者の心得」を教えていただきました。記者会見室で記念撮影。取材もひと通り終わって、ちょっとは「記者」らしくなったかな。

宇宙科学技術館を見学。ロケットや宇宙機について、たくさん学習しました。

種子島宇宙センターのシンボルH-ⅡBロケットの前でも記念撮影。

種子島最南端の門倉岬を見学。門倉岬は断崖絶壁で、晴れると景色が良さそうです。鉄砲伝来の記念碑もありました。岬の神社に打ち上げがうまくいくように参拝しました。

【2日目】

みんなで仲良く朝ごはん。さとうきびをいただいたので試食。食べ方に四苦八苦でしたが、天然の甘さを体験できました。ロケットの大きさ体感ミッション。体育館の対角線が28メートルなので、往復するとH-ⅡBとおほぼ同じ56メートルになります。みんなで手をつないで、H-ⅡBの直径と同じ5・2メートルの輪をつくりました。10人でギリギリです。

増田宇宙通信所を見学。ここでも宇宙について色々楽しく学びました。

【3日目】

今日もみんなで仲良く朝ごはん。天井には宇宙飛行士のサインがいっぱい。打ち上げ見学場所までは歩いて行きました（途中少しだけバス）。島の風景を見ながらたくさん歩いたことは、きっと大きくなってもずっと覚えているはず。

ロケット打ち上げ前の長谷展望公園での点描。お昼ごはんを食べたり、取材をしたり、取材されたり。地元の人や、旅の人とも交流があったり。

種子島の奇景「千座の岩屋」を見学。自然の造形美に感心しながらも、洞窟探検を楽しみました。ロケット打上げ観望ポイントをいくつか下見しました。島内は至る所で打上げ歓迎ムードに包まれています。2日目夜の1大イベント、H-ⅡBの機体移動を見学に行きました。このときは射点のかなり近くまで行けたので、ロケットを間近に見ることができました。大感動です！

打ち上げ時刻が近づくに連れ、人がどんどん増えて、緊張感が高まります。

抜けるような青空のもとまばゆいばかりの閃光と轟音を引きつれたロケットをずっとずっと見上げていました。

（記者一同）

レポート

◆「一日宇宙記者」活動に参加して【吉田和馬】

「一日宇宙記者」として種子島へ行くことができて、いろいろな体験ができました

ロケットの打ち上げは、延期になったけど見ることができて本当によかったです。すごい地ひびきが来て、テレビで見たよりも音が激しくて、感動しながら「無事打ち上がってよかったなー。」と見ていました。

前の日の夜には、ロケットの移動も見ることができました。明るくて見やすくて、動くのが速かったです。

とケットの打ち上げの他にも、種子島宇宙センターへ行き、ロケットの説明を聞いたりクイズをしました。ぼくにはむずかしかったけど勉強になりました。

プレスセンターにも入れて記者会見も見ました。全体的にむずかしかったけど、記者さんの新聞の書き方の説明はわかりやすかったです。

宇宙科学技術館も見学してロケットのエンジンの大きさにはびっくりしました。実際の鉄砲を持ったらすごく重かったです。

あと種子島の観光もできたし、サトキビを食べれたりであっという間に5日間が終わってしまいました。最後に空港で宇津巻さんと別れるのが、さびしかったです。

ロケットの打ち上げを見ている場所で、ロケットを作っている会社の人たちに会ったりして、いろいろな人がロケットに関係しているのを知って、ロケットに前より興味が出てきました。また、チャンスがあったら種子に行きたいです。

◆H－ⅡBロケット&こうのとり2号機打上げ1日宇宙記者体験レポート【岩田浩幸】

今回は、水ロケットコンテスト優勝の副賞として種子島にいき、1日宇宙記者として、本来ならば立ち入る事のできないような場所に入れていただくことができました。

初日に打上げ延期の話を聞いたときは、とても驚き打上げをみることができるのか?と心配になりました。しかし、種子島宇宙センターを始め種子島様々なところを見学させていただけて、とても有意義な4日間でした。

一番初めの元種子島宇宙センター長の園田さんからの公演では、種子島宇宙センターの事はもちろん、内之浦宇宙空間観測所との違いや役割などをわかりやすく教えていただけ、また、今回の打上げミッションも解説していただけて、とてもためになりました。

竹崎展望台では、ブリーフィングに特別参加させていただき、生の記者会見を始めて体感することができてとてもうれしかったです。

打上げの前日には、夜遅かったけれど、機体移動を見ることができロケットの大きさを感じる事ができました。

打上げ会場では、打上げ時刻が近まるにつれ、だんだん長谷公園全体が緊張感に包まれていくように感じました。

ロケットが打ち上がってからしばらくして、ものすごく大きい音がきて、びっくりしました。

打上げ後は、あっという間にロケットが小さくなっていきものすごいスピードだということがあらためて感じられました。

今回、無事ロケットの打ち上げを見ることができ、千座の岩屋や鉄砲伝来の地といった種子島の観光もでき、とても楽しく過ごせました。

ありがとうございました。

◆「一日宇宙記者」【丹羽晶大】

ぼくは、1日「宇宙記者」になって色々な事を思い、知り、感じました。例えば、パソコンや写真では何もわからないということです。H－ⅡBロケットは、パソコンや写真などで見たことがあります。でも実際、移動や打ち上げなどを見ると写真では得られない感動や驚きがありました。ほかにも、ロケットをつくるにあたって一般の人から見えないところですごく頑張っている人達がいるということも分かりました。

僕はこの宇宙記者として種子島に行けて、ロケットの打ち上げを見ることができてすごくうれしかったです。この宇宙記者になって色々事を学んで色々な仕事を知って色々なひとの苦労を知りました。だからこの学んだことを今後の生活、未来の自分がつく仕事に役立てていけたらなと思います。

活動を終えて思った事は、ロケットの打ち上げの時の音はすごいということです。あの時は音というより振動みたいな感じでした。今でもあの音や打ち上げの瞬間を鮮明に覚えています。すごく貴重な体験をさせてもらいました。この体験は本当に一生の宝です。ありがとうございました。

◆「一日宇宙記者」の感想【森田就】

青空に向かって飛び立つロケットを今でも僕は、思い出します。

カウントダウンのきんぱく感・飛ぶ時のごう音、多くの人の「わぁ～」という歓声、どれも初めて体感するものでした。

宿泊場所にはたくさんの科学の本があり、格納庫から発射台への移動も見ることが出来た。あんなに大きく重いものがあんなに早く動かせるなんて。新幹線のように横ではなく、ロケットは立ったまま移動するのも驚いた。

1つのロケットに、こんなに多くの人々が関わっている事も知った。

ニュースでは流れなかったが、記者会見場で本当に多くの質問に答えていた人。ヘルメットをかぶって作業していた多くの人々。今まで造られた50機中40機にたずさわったという人。他にも多くの人がいた。みんな本当にロケットが好きなんだな。そしてみんなの仕事の一つ一つが、未来を変えるんだと思う。

快晴の日の打ち上げになった。途中風向きで雲が流れてきた時、やばい！雲が発射をじゃますると思ったけど、ロケットは突き抜けていって強かった。

あれから何日かたって、宇宙ステーションにこうのとりがついた映像を見た。感動し、そして地球がとてもきれいだった。今頃、運んだ水や食料・実験器具をステーションのみんなが受け取っているだろう。

いつか宇宙に行ける日が来たらいいな。今回は、宇宙に飛び立つロケットを眺めたけど、いつか向かってくるロケットや衛星を宇宙から眺めたい。

◆一日宇宙記者になって【鈴木リディ】

私は、一日宇宙記者として、最初にロケットの打ち上げのブリーフィングに参加しました。周りに記者の人がたくさんいて、フラッシュやカメラの音がすごかったので、ちょっとだけ記者になった気分でした。でも、話はとてもむずかしく、がんばって聞きました。記者の人が新聞の書き方をわかりやすく教えてくれました。記者の人は難しい話を理解して記事を書くので大変な仕事だなと思いました。

長谷展望公園では、ロケットを制作したり、逆に新聞社の人に取材をされました。取材をされたときに、名前を聞かれてうれしかったです。

ロケットの打ち上げの時は、だいぶ前からカウントダウンがはじまって、７００ぐらいの時から緊張してドキドキしました。あかつきの打ち上げの時は、６分前に延期になったと言われて、どうか無事に打ちあがりますようにと何度もお願いをしました。じっとしていられなくて、歩き回ったり、飛びはねたりしました。

打ちあがったときは、まわりからゴォーっと地響きのような音がして、煙もすごく出て迫力がありました。ロケットは打ち上がって一度雲に隠れたけれど、すぐ出てきて、もっと上へ上へと上がっていきました。ブースターが一つ落ちたのが見えました。青い空に、くねくねとしたロケット雲がいつまでも残って見えて不思議でした。

ロケットの中に「こうのとり」が入っていて、その中に水や荷物などが入っていて、宇宙の国際宇宙ステーションまで運ばれて行くんだと思うと、ロケットを作った人ってすごいなと思いました。打ち上げを見ていた人はみんなワーっと声を上げて感動していました。

私は、みんなが感動するものを作る仕事、そういう仕事を将来出来たらいいなと思いました。

◆想いをのせて【中埜遥】

平成23年1月22日、14時37分57秒。晴れ渡った空の下、H－ⅡBロケット2号機が、みんなの想いをのせ、宇宙に旅立ちました。

私は1日宇宙記者として、この発射に同行させてもらいました。

1月19日。私たちが宿泊していた宿で、発射延期という知らせが入り、みんながっかりしていました。しかし、それと同時に、22日発射予定という知らせも入り、少し落ち着いた気持ちで発射までの時間を楽しく過していました。

見学では、ロケットの部分の説明や、今までの過程などを学び、実際に記者としての心得や、記者会見などにも参加させてもらいました。

そして時には、海で貝を拾ったり、洞窟を探検したりなど、種子島の自然の豊かさなども感じました。それと同時に、私の感情が、発射が近づくにつれて、高ぶってゆくのも感じました。

そして発射当日。会場には大勢の人たちが溢れ、私がその人たちにロケットをどう思っているのかと聴くと、決まってみんな、『期待』や『希望』を語ってくれました。

その中に数人、ロケットの設計や、組み立てに携わった人たちが見にきていました。そして私たちに、こう話してくれました。

「ロケットを作るにあたって大切なことは、正確につくること。そしてなにより、チームワークです。と。私はこの時、こういった人びとの真っ直ぐな想いが、見守る人たちに希望をあたえてくれているのだと思いました。

そして、ロケット発射の合図が出た時、見守っている人たちが1つのロケットに想いをのせ、職人さんたちの努力を感じ、私にとってとても刺激的な体験になりました。ここで学び、感じたことは一生忘れません。